

公益財団法人慈愛会
いづろ今村病院

2024年度
年報 第30号

医療の原点は、慈愛にあり。

母が子を慈しみ育てる心、愛を持って病める人の苦しみを除く。

慈しみ、愛する心、その素朴で純粋な気持ちが慈愛会の医療理念です。

患者様を肉親と思い医療の達人（プロフェッショナル）を目指します。

同時に

全職員の物心両面の幸せを追求します。

理念

心と心をつなぐ医療

基本方針

1. プロフェッショナル **達人**

～医療の達人を目指します

2. ハートフル **慈愛** ・ハーモニー **調和** ・ハピネス **幸福**

～慈愛の心で地域と共に人々の幸福を追求します

目次

法人医療理念	1	総務課	41
いづろ今村病院運営方針	1	医事課	42
総括	3	医療クラーク	43
病院概要	4	診療情報管理室	44
病院沿革	5	健康管理センター（事務部門）	45
組織図	9	保安管理課	46
委員会組織図	10	慈愛会クリニック	47
病院指標	11	一年のあゆみ	49
部門別報告	20		
看護管理室	21		
緩和ケア病棟	22		
一般病棟	23		
地域包括ケア病棟	24		
中材・手術室・眼科外来	25		
総合外来	26		
内視鏡室	27		
健康管理センター（看護部門）	28		
地域連携室	29		
薬剤部	30		
画像診断科	31		
臨床検査科	32		
リハビリテーション室	33		
視能訓練室	34		
栄養管理科	35		
調理室	36		
通所リハビリテーション	37		
居宅支援介護事業所	38		
医療安全管理室	39		
感染管理室	40		

総括

院長 長野 真二郎



2024年度の業績を振り返ると、救急車の受け入れ台数、新規入院患者数、紹介患者割合、逆紹介患者割合は増加しました。一方、平均在院日数の低下に伴い延べ患者数が減少した結果、病床稼働率が低下し、収益減少を招きました。特に9月以降の落ち込みが激しく、全体として厳しい1年となりました。

診療科別では、緩和ケア内科や皮膚科は堅調でしたが、IBD患者、糖尿病患者、血液疾患の患者数は年々減少傾向にあります。DPC病棟の維持には退院・転棟数90件/月以上が必要ですが、眼科手術後の短期入院に依存する状況が続いており、病棟や病院機能の再編が求められています。

総合診療部は3年目を迎え、内科医2名体制でスタートしましたが、7月以降は1名体制となり、病床稼働率低下の一因となりました。糖尿病内科では、治療薬の進歩や専門医の独立開業の影響で教育入院患者数の減少傾向が継続しています。次年度の集患対策として内分泌代謝内科外来の創設準備を進めています。

消化器内科では常勤医の高齢化により内視鏡検査医の確保が困難となり、健診者数制限を余儀なくされています。一方、健康管理センターでは常勤医を増員し、3名体制の産業医を整備しました。さらに9月にはウエルネスじあいの1・2階へ移転し、健診者増加を目指す体制を整えました。

慈愛会トータルヘルスケアシステム構築では、当院の役割を再確認しつつ、訪問診療部門を拡充し、高麗町クリニックやかごしまオハナクリニックとの連携強化を進めました。また、健康管理センターでは健診者数増加と産業医事業拡大を目指し取り組みを開始しました。

病病・病診連携では、法人内で介護老人保健施設「愛と結の街」と協力医療機関協定を締結し、高麗町クリニックおよびオハナクリニックとの訪問診療部門の連携強化を継続しました。近隣医療機関との協力では、相良病院とのリンパ浮腫外来診療協定締結、井後眼科との開放型病院連携、ひなたクリニックなどとの医療連携協定を締結し、新規患者獲得を目指しています。9月には近隣医療機関との地域連携会を開催し、R7年1月にはケアマネジャー向け研修会を実施しました。

また、地域との交流では、例年の「いづろ今村病院健康祭り」を「いづろ健康・介護祭り」に名称変更し、名山地区コミュニティと連携して実施しました。甲東中学校吹奏楽部の演奏や、瀬戸山クリニック院長による講演を通じて地域との関係を深めました。さらに、3月には「市民モニター会議」を開催し、地域住民との意見交換を行いました。

2024年度は厳しい状況の中でも、事業計画に基づき多方面で取り組みを進めました。次年度は、職員一丸となってこれらの成果を実現するべく邁進していきます。

病院概要

管 理 者 長野 真二郎

所 在 地 〒892-0824 鹿児島県鹿児島市堀江町17番1号

T E L 099-226-2600

病 床 数 115床（一般35床、地域包括ケア58床、緩和ケア22床）

標榜診療科 内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、血液内科、外科、
消化器外科、婦人科、放射線科、眼科、緩和ケア内科、皮膚科

指定医療機関等

- ・厚生労働省協力型臨床研修指定病院
- ・母子保健法指定医療機関
- ・開放型病院
- ・小児慢性特定疾患医療指定医療機関
- ・救急告示病院
- ・労働者災害補償保険法指定医療機関
- ・生活保護法指定医療機関
- ・人間ドック指定病院
- ・被爆者一般疾病指定医療機関
- ・健康保険法指定医療機関
- ・結核予防法指定医療機関
- ・労働者災害補償保険法二次健診等
給付指定医療機関
- ・特定疾患医療指定医療機関
- ・各種健診（検診）・予防接種等受託医療機関
- ・母体保護法指定医療機関

学会等認定施設

- ・日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱ
- ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本緩和医療学会認定研修施設
- ・日本総合健診医学会・日本人間ドック・予防医療学会 人間ドック 健診専門医研修施設

その他の認定施設

- ・公益財団法人日本医療機能評価機構認定病院（3rdG：Ver. 3.0）
- ・日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価認定（Ver. 4.0）
- ・全日本病病院協会日帰り人間ドック実施指定施設
- ・鹿児島県救急災害医療情報システム参加登録病院

通所リハビリテーション ウェルネスじあい

所 在 地 〒892-0824 鹿児島県鹿児島市堀江町17番1号

T E L 099-226-5206

指定訪問リハビリテーション ウェルネスじあい

所 在 地 〒892-0824 鹿児島県鹿児島市堀江町17番1号

T E L 099-226-2600

指定居宅介護支援事業所 ウェルネスじあい

所 在 地 〒892-0824 鹿児島県鹿児島市堀江町17番1号

T E L 099-226-5207

沿革

昭和 9年	鹿児島市堀江町に今村産婦人科医院を開業
昭和 19年	太平洋戦争で空襲激化のため閉鎖
昭和 22年	鹿児島市泉町にて再開
昭和 25年	財団法人組織に改め、公益法人病院となる
昭和 33年	放射線科を増科
昭和 36年	病床数を40床へ増床
昭和 37年	病床数を55床へ増床
昭和 38年	病床数を148床へ増床
昭和 39年	病床数を157床へ増床。内科を増科
昭和 41年	病室の一部を看護婦宿舎に用途変更し、病床数131床へ減少
昭和 44年	麻酔科を増科。人工透析を開始
昭和 45年	外科を増科
昭和 46年	病床数を153床へ増床。人間ドックを開始
昭和 59年	鹿児島市鴨池新町に今村病院分院を開設 内科の一部（血液疾患）と人工透析、人間ドックを分院へ移転
昭和 62年	消化器科、循環器科を増科
平成 2年 6月	院長 野村 秀洋 就任
平成 6年 6月	今村病院を鹿児島市堀江町に新築移転
12月	薬剤管理指導取得
平成 8年 6月	一般病棟I群入院基本料1、新看護2：1A、 夜間看護加算Ⅰa,Ⅰb取得
平成 9年 8月	麻酔管理料取得
平成10年 2月	財団法人日本医療機能評価機構(ver3.1)の定める認定基準
11月	一般病院種別A)の『認定証』取得 救急病院の認定
平成12年 8月	脳神経外科を増科
平成13年 3月	開放型病院共同指導料施設基準届出受理
5月	病床数を153床→165床へ増床

平成14年 4月	外来化学療法専用治療室開設
5月	夜間看護加算1,2取得
9月	一般病棟I群入院基本料1（平均在院日数要件届出） 医療安全管理体制・褥瘡対策届出
平成15年 2月	財団法人日本医療機能評価機構(ver4.0)の認定更新
7月	小児科を増科
10月	卒後臨床研修病院（管理型）に指定
11月	労災保険指定医療機関に指定
平成16年	臨床研修病院入院診療加算施設基準届出受理
9月	診療録管理体制加算取得
10月	理事長 今村 英仁 就任
11月	特定集中治療室施設基準届出受理(ICU2床)
平成17年 2月	無菌治療室加算取得(7階6床)
平成18年 4月	一般病棟入院基本料10:1取得
7月	一般病棟入院基本料 7:1取得。DPC対象病院となる
9月	特定集中治療室施設基準届出受理（ICU2→4床へ）
平成19年 11月	リハビリテーション開設（8階）
平成20年 4月	無菌製剤室開設
6月	公益財団法人日本医療機能評価機構(ver5.0)の認定更新
平成21年 1月	糖尿病内科、血液内科を増科。脳神経外科、神経科を減科 循環器内科、消化器内科、消化器外科、 産婦人科へ診療科名変更
2月	準個室ユニット届出受理（6床室→4床室へ、32床改修）
9月	無菌治療室増設（6階3床） リハビリテーション室増設（B1階）
10月	呼吸器内科増科
平成22年 4月	病理診断科増科
7月	外来化学療法専用治療室増設（4床→6床）
9月	臨床検査室移設（2階→B1階）
12月	内視鏡室拡張増室
平成23年 3月	鹿児島県知事より公益財団法人認定
4月	公益財団法人へ移行（法人名称の変更）
12月	鹿児島県がん診療指定病院（総合）指定

平成24年 1月	特定集中治療室施設基準届出辞退 (ICU4床→一般病床4床)
4月	大腸・肛門外科増科
8月	CTバージョンアップ16列→64列
平成25年 2月	病床数を165床→158床へ減床 (今村病院分院へ7床移設)
4月	公益財団法人日本医療機能評価機構(ver6.0)の認定更新
11月	泌尿器科増科
平成26年 3月	緩和ケア病床10床開設
4月	院長 今村 英仁 就任 (理事長兼任) 病床数を158床→154床へ減床 (今村病院分院へ4床移設) 慈愛会糖尿病センター開設 眼科増科 一般病床入院基本料7:1→10:1へ
5月	創立80周年を迎える
9月	院長 鎌田哲郎 就任 病床数を154床→152床へ減床 (今村病院分院へ2床移設) 病理診断科、麻酔科 減科
12月	新棟 ウェルネスじあい開設 リハビリセンター、外来化学療法センター拡充 (6床→10床)、 会議室等バックヤード機能の整備、在宅診療部の新設) 通所リハビリ事業所「ウェルネスじあい」開設 鹿児島県がん診療指定病院 (総合) 指定を今村病院分院へ移管
平成27年 2月	指定居宅介護支援事業所「ウェルネスじあい」開設
3月	緩和ケア病床を20床に変更
7月	訪問リハビリ事業所「ウェルネスじあい」開設
9月	今村病院IBDセンター開設
平成28年 4月	地域包括ケア病棟30床開設

平成29年 2月 地域包括ケア病棟を52床に変更

6月 施設名称を「今村病院」より「いづろ今村病院」へ変更

8月 病床数を152床→145床へ減床（今村総合病院へ7床移設）
（急性期72床（▲8床）・地域包括ケア53床（+1床）
・緩和20床）一部診療科を今村総合病院へ移転（小児科減科、
産婦人科を婦人科に変更）
産婦人科におけるお産件数 5,821件（平成6年6月～平成29年
7月）

9月 緩和ケア内科増科

10月 今村総合病院より人間ドックを統合

平成30年 4月 院長 黒野明日嗣 就任
公益財団法人日本医療機能評価機構認定更新（3rdG:ver1.1）

9月 日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価（Ver.3.0）
認定

令和元年 6月 呼吸器内科減科

10月 病床数を145床→130床へ減床（今村総合病院へ15床移設）
（急性期57床（▲15床）・地域包括ケア53床・緩和20床）

令和2年 3月 在宅療養支援病院（3）を取得

4月 泌尿器科減科

令和3年 1月 病床数を130床→115床へ減床（今村総合病院へ15床移設）
（急性期42床（▲15床）・地域包括ケア病棟53床・緩和20床）

4月 皮膚科増科

令和4年 4月 院長 常盤光弘 就任

令和5年 2月 公益財団法人日本医療機能評価機構認定更新（3rdG:ver3.0）

3月 病床編成 急性期35床（▲7床）・地域包括ケア58床（+5床）
・緩和ケア22床（+2床）

4月 院長 長野真二郎 就任
在宅療養支援病院（2）を取得

7月 大腸・肛門外科閉科

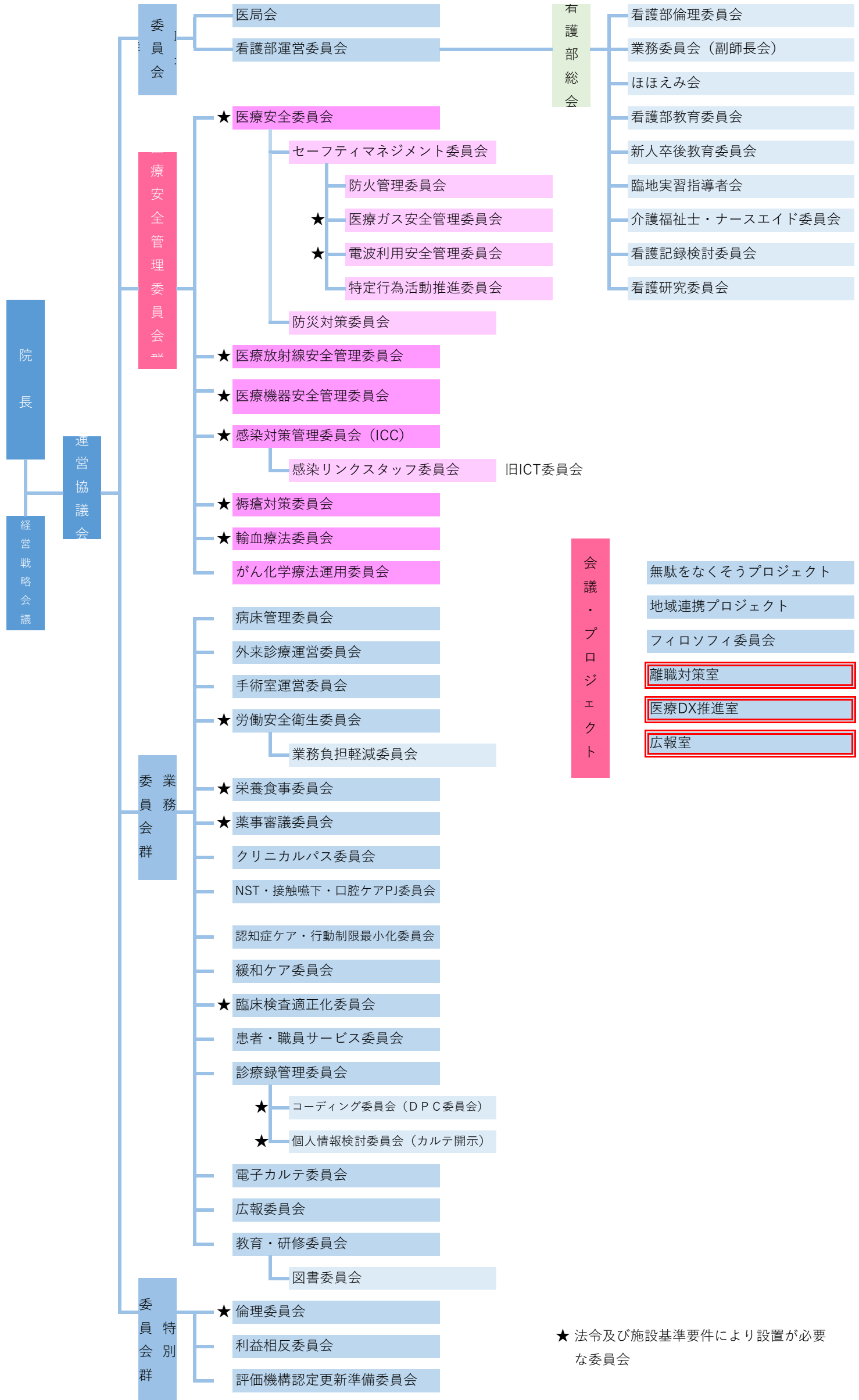
病院組織図

2023年7月1日～



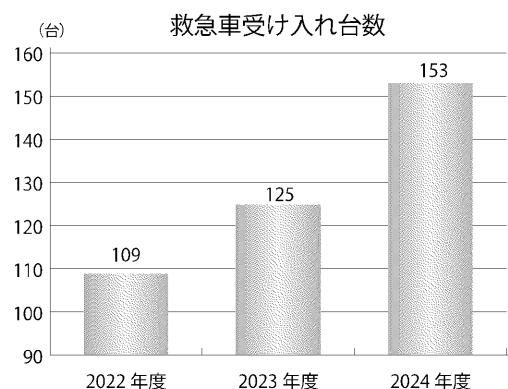
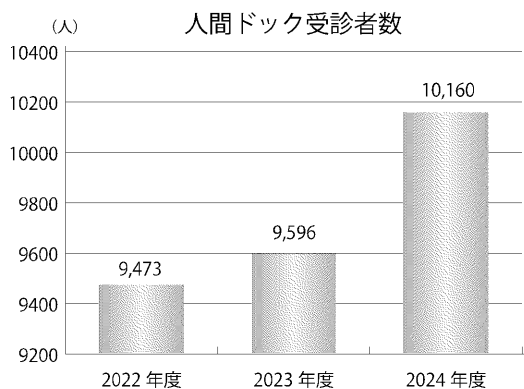
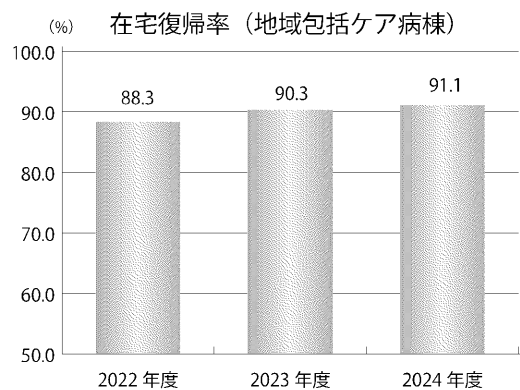
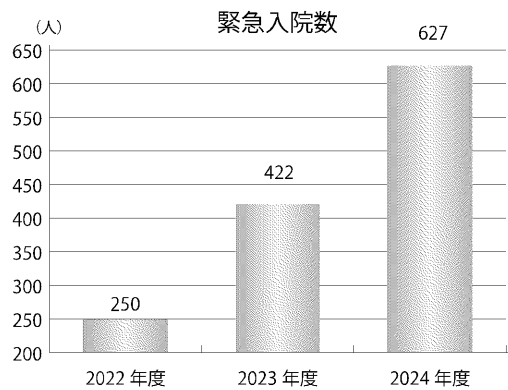
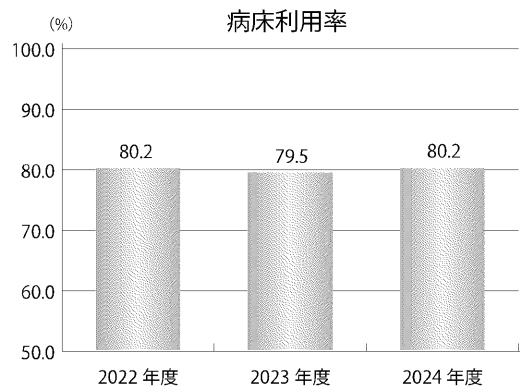
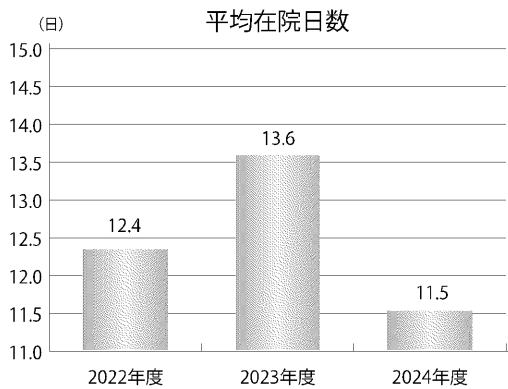
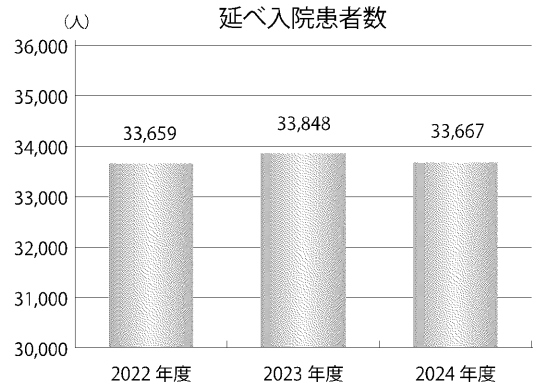
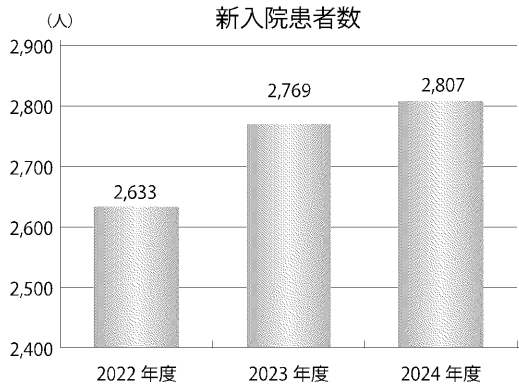
委員会組織図

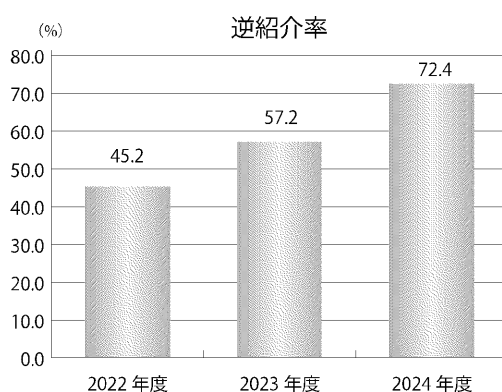
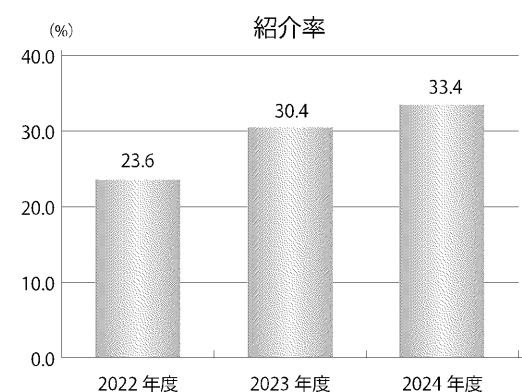
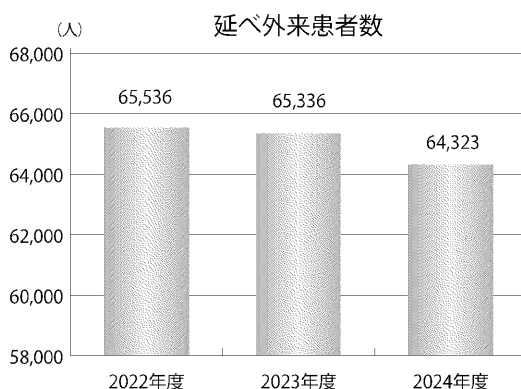
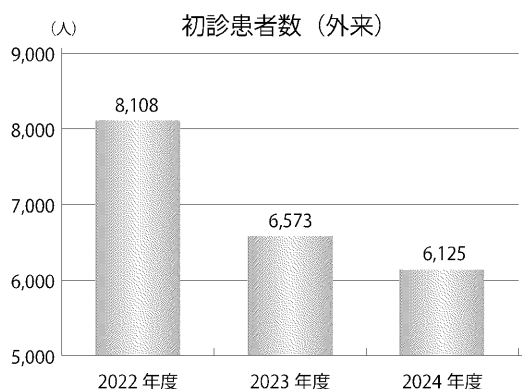
2023年4月1日～



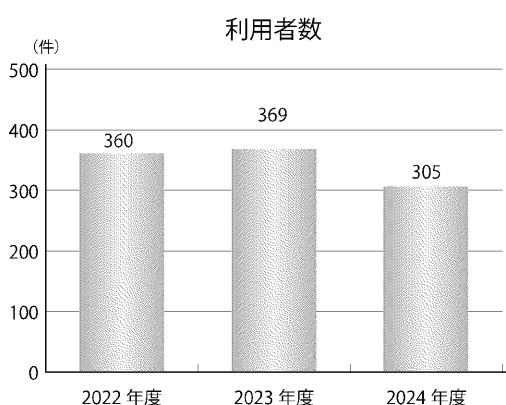
病 院 指 標

いづろ今村病院





指定居宅介護支援事業所 ウェルネスじあい



【2024年度総括】

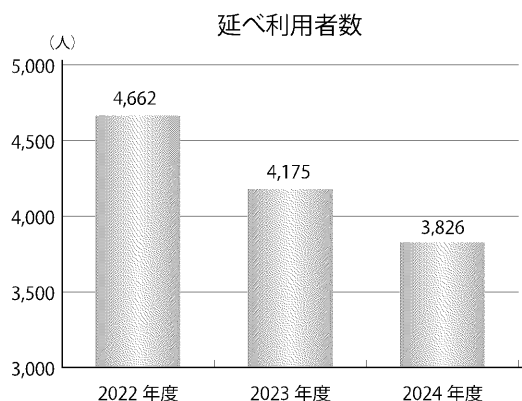
〈目標達成度〉

担当利用者の高齢化に伴い訪問看護利用プランが多くなり、ターミナル者数も目標値年間5件に対し実績35件と大幅に増加。毎月のモニタリングを行う中で、訪問看護等の導入により、専門職による身体状況等の管理が奏功し、入院者数は予定より少なく在宅生活を継続することができました。また、担当利用者の退院時には、退院前カンファレンスに参加し目標値通りの結果となりました。

〈総括〉

担当利用者の高齢化が進む中、老老介護や身体状況の変化により在宅生活の継続が困難な状況があります。在宅療養支援病院内の居宅介護支援事業所の役割としての、在宅医療・介護支援機能の強化のために今後も支援を続けていきます。

通所リハビリテーション ウェルネスじあい



【2024年度総括】

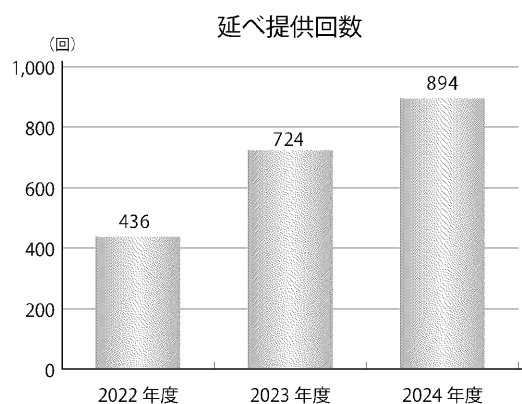
〈目標達成度〉

2024年度延べ利用者数は3,826名（月平均新規利用1.08名、月平均利用割合73.4%）、収益27,563,430円と計画達成。体験利用者数は年13件実施、そのうち10件が実際の利用につながりました。

〈総括〉

2024年度は場所移転に伴い、昨年度より少なめの定員で運営し収益が減少。しかし2024年度の介護報酬改定対策として医師を交えたりハビリ会議を全利用者に実施し、可能な加算の算定・減算項目の除外をすることができ、年度初めの予想収益に比べると実際の収益が上回りました。来年度はハード面を調整し徐々に受入枠を拡大、最終的に一日4名受入を増やす予定。それに伴い収益は上がっていく見通しです。

指定訪問リハビリテーション ウェルネスじあい



【2024年度総括】

〈目標達成度〉

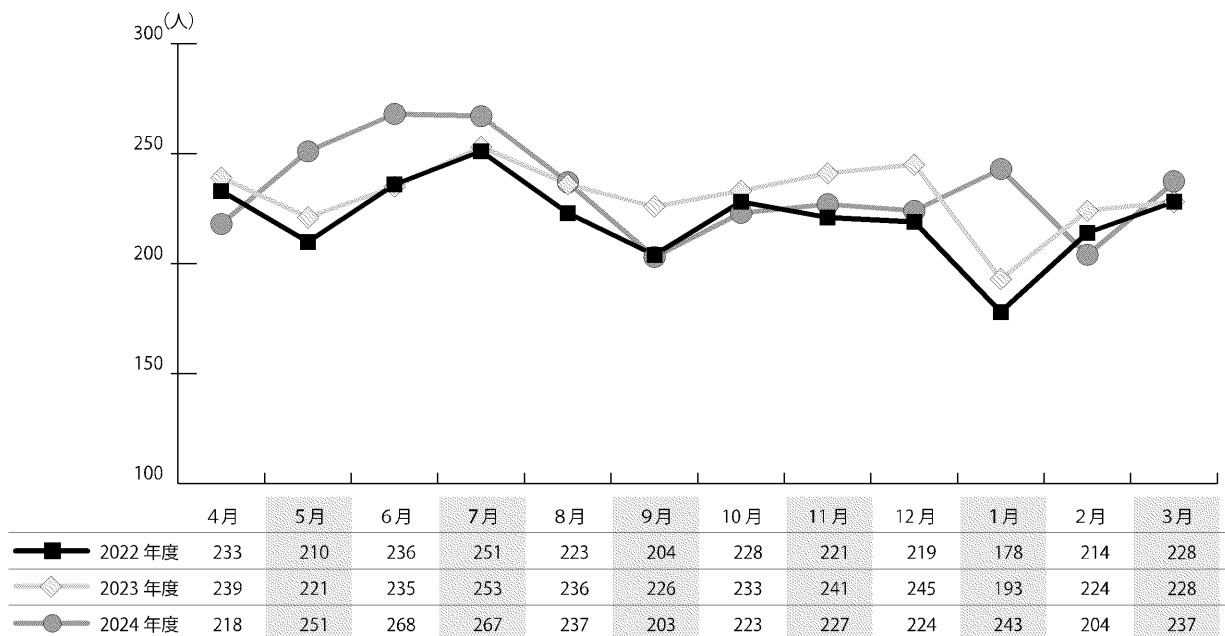
2023年度の延べ提供回数724回から、2024年度は延べ提供回数894回（前年度比23%増）となりました。目標の20%増を、増員なしで何とか達成しましたが、兼務していた通所リハの負担が増大する場面が見られました。

〈総括〉

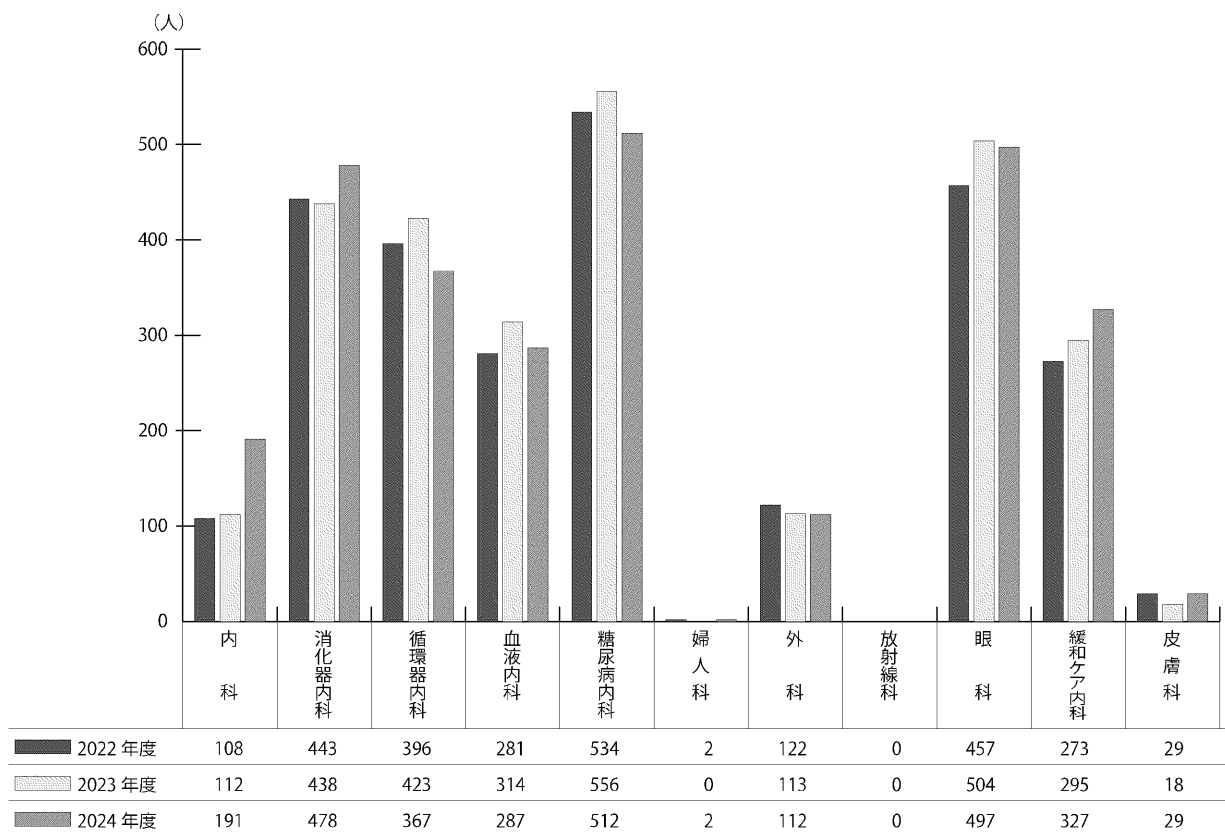
対象者は主に当院退院後の患者様、もしくは当院かかりつけ外来の患者様です。今年度から、事業所外からの訪問リハ依頼も積極的に受注し、より多くの利用者様のニーズに対応できるよう取り組んでいます。スタッフ増も予定しており、今後も地域の皆様のお役に立てるよう取り組んでまいります。

患者動向

年度別月別退院患者数



年度別診療科別退院患者数



DPC 統計 (MDC、ICD)

年度別MDC別退院患者数



ICD-10 大分類による診療科別統計 (2022年度)
2022年4月～2023年3月までの退院患者

大分類		内科	消化器 内科	血液 内科	糖尿病 内科	外科	婦人科	循環器 内科	緩和 ケア 内科	眼科	皮膚科	計
1	感染症および寄生 虫症 A00-B99	2	15	5		5		2	1		7	37
2	新生物 C00-D48	5	136	248	3	49	1	8	236		3	689
3	血液および造血器 の疾患ならびに免 疫機構の障害 D50-D89	9	1	19	1			1				31
4	内分泌、栄養およ び代謝疾患 E00-E90	10	11	1	505	1		2				530
5	精神および行動の 障害 F00-F99	15				4		5				24
6	神経系の疾患 G00-G99	4	4		3	2		6				19
7	眼および付属器の 疾患 H00-H59	2	1		1			229		454		687
8	耳および乳様突起 の疾患 H60-H95	2	1					1				4
9	循環器系の疾患 I00-I99	12	13		3	3		81	1			113
10	呼吸器系の疾患 J00-J99	15	3	6	2	5		10	1			42
11	消化器系の疾患 K00-K93	3	242	1	1	45		6				298
12	皮膚および皮下組 織の疾患 L00-L99	2			2	2		6			17	29
13	筋骨格系および結 合組織の疾患 M00-M99	11	1		3	2		21	3			41
14	腎尿路生殖器系の 疾患 N00-N99	12	7	1	8	1	1	7	29			66
15	妊娠、分娩および 産褥 O00-O99				1							1
19	損傷、中毒および その他の外因の影 響 S00-T98	4	7		1	3		10	1	3	2	31
22	特殊目的用コード U00-U99		1					1	1			3
計		108	443	281	534	122	2	396	273	457	29	2,645

ICD-10 大分類による診療科別統計 (2023年度)
2023年4月～2024年3月までの退院患者

大分類		内科	消化器 内科	血液 内科	糖尿病 内科	外科	婦人科	循環器 内科	緩和 ケア 内科	眼科	皮膚科	計
1	感染症および寄生 虫症 A00-B99	2	13	6	4	2		3			2	32
2	新生物 C00-D48	8	150	281	5	46		8	254		1	753
3	血液および造血器 の疾患ならびに免 疫機構の障害 D50-D89	6	7	15				3				31
4	内分泌、栄養およ び代謝疾患 E00-E90	8	3		512	1		9		2		535
5	精神および行動の 障害 F00-F99	10	2		3	2		3	1			21
6	神経系の疾患 G00-G99	4	7		1	1		4	1			18
7	眼および付属器の 疾患 H00-H59	1	1		1			251		500		754
8	耳および乳様突起 の疾患 H60-H95	4	1					3				8
9	循環器系の疾患 I00-I99	15	9		4	11		74	1			114
10	呼吸器系の疾患 J00-J99	15	4	8	6	8		18	3			62
11	消化器系の疾患 K00-K93	2	226		2	25		4	1			260
12	皮膚および皮下組 織の疾患 L00-L99	2		1	5			3	1		13	25
13	筋骨格系および結 合組織の疾患 M00-M99	17	3			9		26	1			56
14	腎尿路生殖器系の 疾患 N00-N99	10	1	2	10	2		5	33			63
15	妊娠、分娩および 産褥 O00-O99											
19	損傷、中毒および その他の外因の影 響 S00-T98	5	11	1		6		8		1	2	34
22	特殊目的用コード U00-U99	3			3			1				7
計		112	438	314	556	113	0	423	296	503	18	2,773

ICD-10 大分類による診療科別統計 (2024 年度)
2024 年 4 月～2025 年 3 月までの退院患者

大分類		内科	消化器 内科	血液 内科	糖尿病 内科	外科	婦人科	循環器 内科	緩和 ケア 内科	眼科	皮膚科	計
1	感染症および寄生 虫症 A00-B99	8	29	4	2	2		1	1		5	52
2	新生物 C00-D48	10	145	260	1	55	2	4	293		1	771
3	血液および造血器 の疾患ならびに免 疫機構の障害 D50-D89	1	4	11		1						17
4	内分泌、栄養およ び代謝疾患 E00-E90	18	8		475	1		4				506
5	精神および行動の 障害 F00-F99	8	2			1		8				19
6	神経系の疾患 G00-G99	7	3			1		4				15
7	眼および付属器の 疾患 H00-H59							202		496		698
8	耳および乳様突起 の疾患 H60-H95	3		1	1			2				7
9	循環器系の疾患 I00-I99	18	23		2	7		79	1		5	135
10	呼吸器系の疾患 J00-J99	58	4	8	4	6		19	3			102
11	消化器系の疾患 K00-K93	8	244		4	20		1	1			278
12	皮膚および皮下組 織の疾患 L00-L99	3		1	5	2		6			17	34
13	筋骨格系および結 合組織の疾患 M00-M99	16	2		2	7		19				46
14	腎尿路生殖器系の 疾患 N00-N99	12	6		4	2		5	28			57
15	妊娠、分娩および 産褥 O00-O99				1							1
17	先天奇形、変形お よび染色体異常 Q00-Q99							1				1
19	損傷、中毒およびそ の他の外因の影響 S00-T98	11	8	1	2	6		7	1	1	1	38
22	特殊目的用コード U00-U99	10		1	9	1		4				25
計		191	478	287	512	112	2	366	328	497	29	2,802

部 門 別 報 告

看護管理室

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	1. 組織が求める専門性の高い人材育成とキャリア支援 2. 安全意識を高め安全、安心な医療・看護の提供を行う 3. 倫理感を高め患者様の尊厳を尊重した個別的な質の高い看護を実践する 4.働き方改革推進を活かし、やりがいのある働きやすい職場づくりを行う 5. 地域包括ケアを活かし、専門的視点からケアできる支援体制をつくる 6. 地域から求められる病院を目指し安定した病院経営へ繋げる
<p>1.病床運用の効率化： 平均病床利用率 80.21%（92.2 名） 緊急入院患者 627 名</p> <p>2.安定した看護職員人材確保、適正人員配置による生産性向上 看護職員離職数 6 名（-8 名）離職率 5.9%（-8.6%） 新人看護師離職率なし 内訳:他施設への就職が 3 名（50%）（2024 年病院看護実態調査 離職率 看護職員 11.3%） 4 月～2 月までの超過勤務時間平均 9：14 時間（乖離前年度 2 分短縮）</p> <p>3. 働き甲斐のある職場環境、働き方改革推進 診療支援部・事務部と連携会議開始 ①放射線技師の造影剤注入のルート確保の 80%実施 ②検査前後の患者案内の共同業務の実施</p> <p>4. 人材の計画的育成と活動支援 ①感染管理認定看護師認定（日本看護協会）1 名 ②糖尿病看護認定看護師認定更新（日本看護協会）1 名 ③専任教員養成講習会修了認定 1 名 ④災害支援看護師研修終了 4 名</p>	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	1.看護実践能力の高い人材育成とキャリア支援 2.急性期、回復期、在宅看護サービス向上 3.医療と介護、介護サービス事業所内の連携強化、協力体制整備による連携推進 4.看護職の働き方改革（働く環境の整備、子育て介護支援、医療 DX 導入活用による業務負担軽減、人的支援、働き方改革等）5.感染症・災害への対応力強化、業務継続計画 BCP 策定の着実な整備 6.多職種連携チームによるマネジメント、安全で質の高いサービス提供
<p>1.病床運用の効率化・法人内外の連携強化・情報共有、病床機能を活かした効果的な病床管理： 病床利用率 89.6%（103 名/115 床）</p> <p>2.看護職員人材確保、適正人員配置による生産性向上： 毎日の病院見学・職場体験・ふれあい看護体験の実施</p> <p>3.働き甲斐のある職場環境、働き方改革推進： 多職種連携により業務改革（診療支援部・事務部と連携会議の実施）</p> <p>4.人材の計画的育成と活動支援 災害支援看護師 認定看護管理者（ファーストセカンドレベル）等の育成 慈愛会看護部 J-seaty ナース研修 糖尿病看護開始</p>	

緩和ケア病棟

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域や組織における緩和ケアの役割を推進する 2. 多職種と連携を図り、安心安全快適な療養環境を提供する 3. 定期的な業務改善による働き方改革を推進する 4. 緩和ケア病棟としてやりがいを感じることでできる環境づくり
<ol style="list-style-type: none"> 1. 病床利用率平均 85.1%。新規入院患者 283 名/年（前年度 255 名/年）。緩和ケア面談 147 件/年（前年度 161 件/年）。緊急入院 10 名/年（前年度 10 名/年）。看取り 94 名/年（前年度 95 名/年）。他病棟満床時の入院受入 40 名/年。診療報酬：緩和ケア病棟入院料 1 取得は継続できた（在宅復帰率 46.9%・待機日数 1.28 日/年）2022 年度から緩和ケア疼痛評価加算 100 点/日算定中。 2. 毎週多職種カンファレンスを開催し、患者や家族の望む療養環境（可能な限り在宅で過ごす）を調整した。医療安全においては、自己抜針や一人で 3 回転倒する方、頭部打撲される方がいらした。センサー設置時の確認作業を怠らないようにしていく。 3. 超過勤務時間削減を目的に、2 年前よりウオーキングカンファレンスを開始。引き継ぎ時間は、約 30 分の短縮が得られたが、明らかな超過勤務削減には至らなかった。 4. エントランスや病室に季節に応じた飾り付けを行なった。フォトウエディング実施。 	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域や組織における緩和ケアの役割を推進する 2. 多職種と連携を図り、安心安全快適な療養環境を提供する 3. 業務改善とワークライフバランスの実現 4. 緩和ケア病棟としてやりがいを感じることでできる環境づくり
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域や組織における緩和ケアの役割を推進する <ol style="list-style-type: none"> ①病床利用率 90%取得、緩和ケア入院料 1 取得の継続（疼痛評価加算 100 点/日の取得） ②在宅療養患者の緊急入院の柔軟な受け入れや緩和ケア外来、訪問診療、訪問看護ステーションとの連携継続 ③プライマリーナースや多職種の共同による、退院後の生活を見据えた療養環境の調整 2. 多職種と連携を図り、安心安全快適な療養環境を提供する <ol style="list-style-type: none"> ①アセスメントに基づき専門性を発揮した速やかな症状緩和ケアの提供 ②多職種それぞれの専門を活かし、患者の療養生活を整える ③双方式ダブルチェック徹底によるインシデント発生予防や指摘しあえる環境づくり 3. 業務改善とワークライフバランスの実現 <ol style="list-style-type: none"> ①重複記録を削減し効率化を図り、超過勤務時間月平均 10 時間以内 ②リフレッシュ休暇 7 日間の取得 4. 緩和ケア病棟としてやりがいを感じることでできる環境づくり <ol style="list-style-type: none"> ①J-seaty ナースによる目標管理支援強化や新人看護師および 2・3 年目看護師の OJT による支援、中途採用者の支援、介護福祉士の支援を強化 ②専門性や病棟組織の役割向上に向けた知識・技術の習得のための研修受講や勉強会の開催 ③4 回/年病棟でプチイベントを開催 	

一般病棟

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	1) 安全で安心な質の高い看護の提供 2) PNS とセル看護方式の構築・定着 3) 業務改善とワークライフバランスの実現 4) 人材育成・能力開発の機会を作り看護実践能力の向上につなげる
①病床稼働率は、86.6%を目標とし、87.3%と目標達成できた。 ②平均在院日数は、15 日を目標とし、11.5 日と目標達成できた。DPC 件数獲得のために、他部署と連携し、転棟を検討したことが影響していると考ええる。 ③看護必要度は、15%を目標とし、34%と大幅に目標を上回った。 ④無菌室利用率は、90%を目標とし、97.15%と目標達成できた。加算対象者をピックアップし、病床コントロールできた。 ⑤病棟勉強会は、12 回/年開催を目標としたが、9 回/年であった。教育委員と協力し、有意義な勉強会であった。 ⑥新入職者の離職はなかった。 ⑦超過勤務平均時間（看護師）は、8 時間/月を目標とし、5 時間 50 分/月と目標達成できた。 ⑧リフレッシュ休暇取得率の目標は、100%を目標としたが、4 名が取得せず 85.7%であった。	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	1) 安全で安心な質の高い看護の提供 2) PNS とセル看護方式の構築・定着 3) 業務改善とワークライフバランスの実現 4) 人材育成・能力開発の機会を作り看護実践能力の向上につなげる
①病床稼働率は、87.3%を目標とする ②平均在院日数は、15 日を目標とする。 ③1 月の DPC 件数は、90 件を目標とする。 ④看護必要度は、15%を目標とする。 ⑤無菌室利用率は、92%を目標とする。 ⑥病棟勉強会は、10 回/年開催を目標とする。 ⑦新入職者の離職なしを目標とする。 ⑧超過勤務平均時間は、8 時間/月を目標とする。 ⑨リフレッシュ休暇取得率の目標は、100%とする。	

地域包括ケア病棟

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	1) 働き方改革を継続推進し、働き甲斐のある職場環境づくり 2) 業務改善を行いタスクシフト・タスクシェアの整備 3) 専門性を持った看護人材育成を行い、それぞれの能力を活かした看護の提供
<p>1) リフレッシュ休暇・誕生日休暇：100% ⇒対象者の取得はできた。 年度途中での異動や退職者が6名あり、長期間の（5-7日）リフレッシュ休暇は取得できない場合もあった。特に補助者は派遣も採用しているが定着せず、休暇を分けて取りなんとか有給休暇を全員取得できた。次年度も人員確保が難しく、休暇の取り方を検討していきたい。</p> <p>2) 超過勤務時間：8時間以内 ⇒7.25時間 /4階9.43（9.27）時間/5階5.07（8.65）時間 病床稼働率：85.3%/目標92%（86.5%）入院数：1,298名/目標1,150名（1,365名） 在院日数：12.7日/目標20日以内 在宅復帰率：89.3%/目標75%以上（直近6ヶ月90.3%） レスパイト入院件数：43（56）件 緊急入院：156（149）件 一般からの転入数：127名（78名） 集団レクリエーション：30回/年 実施/目標10回 参加者27名/年/目標30名 ・超過勤務は、4階の超過勤務時間は増えているが5階で大幅に短縮できており目標を達成できた。 患者層の違いもあるが、入院処理に時間を要しており、更なる業務改善が必要である。</p> <p>3) 糖尿病教室：282名/年（250名以上）、金・土コース：18名/年（30名以上）、腎症コース：24名/年（30名以上）と糖尿病教室受講数は増えたが、他コースは目標に達することができなかった。 ・人材育成の面では管理者任用候補者研修者：1名（看護師）参加し合格。CDE受験者：1名は合格することができた。フットケア研修：1名、認知症ケア加算Ⅱ対応研修：1名、J-seaty ナース研修への積極的参加を挙げていたが2名のみとなった。（フィジカル・看護学校）/前年度4名 病棟勉強会：9回 勉強会は感染状況に影響を受け目標の7回以上は達成したが、昨年度より開催回数が減った。対面以外での情報共有なども検討したい。</p>	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	1) 働き方改革を継続し、働きやすく定着できる職場環境づくり 2) 業務改善を行いタスクシフト・タスクシェアの推進 3) 専門性を持った看護人材育成を行い、それぞれの能力を活かした看護の提供
<p>1) リフレッシュ休暇・誕生日休暇：対象者100%の取得、可能であれば5日以上連続取得を目指す。</p> <p>2) 超過勤務時間：8時間以内、入院オリエンテーションの簡素化 病床稼働率：90% 入院数：1,300名以上 在院日数：20日以内 一般からの転入：100名以上 在宅復帰率：75%以上 緊急入院：9件/3ヶ月 リハビリ2単位以上 集団レクリエーション：12回/年 実施 25名/年</p> <p>3) 糖尿病教室：280名以上/年 金・土コース：20名/年 腎症コース：30名/年 ・CDE/KCDEL受験者・更新者：各1名 フットケア研修：1名 病棟勉強会：10回以上 ・認定看護管理者教育過程ファースト・セカンド：各1名受講予定 ・管理者任用候補者研修者：1名（看護師）、退院支援看護師育成研修や認知症ケア加算Ⅱ対応研修をはじめとする研修への積極的参加 ・今年度初めて開催するJ-seaty ナース研修、糖尿病分野の研修ホストとしての支援</p>	

手術室・中央材料室・眼科外来

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	1.専門職として自己研鑽に努め、質の高い安心・安全な医療、看護を提供する 2.業務の効率化を図り、働きやすい職場環境作りに努める。
<p>2024 年度の手術総件数 605 件（前年度比：－22 件）。内訳として、眼科 581 件、外科 1 件、皮膚科 23 件であった。手術室スタッフの人員不足の問題があったが、医師へ日程調整を相談・協力をもらい、リリーフの協力ももらうことで、依頼のあった症例全て断ることなく実施することができた。手術室看護師一人一人の知識、技術のレベルがあがったことや、手術室業務の見直し、業務改善を行ったこと等が件数維持へ繋がったと考える。しかし、手術業務において針刺し事故が 1 件発生したことから、安全対策の強化が必要である。また、手術台や顕微鏡等、使用年数が経っているため故障が相次ぎ、対応に追われた一年であった。眼科外来では、外来患者数 1,110 人/月（目標 900 人/月）、初診患者数 46.7/月（目標 45 人/月）、硝子体注射件数 42.4 人/月（目標 30 件人/月）。全体的に患者数は増加。硝子体注射の件数維持のため昨年度からの業務改善にてスムーズな受け入れができています。中央材料室ではガイドラインに沿って業務の見直し、改善を行った。経年劣化による器機の故障が相次ぎ対応に追われた。看護師育成では、クリニカルラダー V1 名認定、管理者任用候補者研修 1 名認定を受けた。新しくスタッフが配属され、個人のレベルに応じ部署全体で教育を行っている。院外研修は、全員が計画的に参加でき、専門職として各自学ぶことができた。働きがいのある職場環境作りでは、学校行事や介護など希望の休暇は、お互いが協力し取得することができた。リーダーを中心に終礼を実施し、振り返りや意見交換できるような環境作りを行った。</p>	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	1.専門職として自己研鑽に努め、質の高い安心・安全な医療、看護を提供する 2.業務の効率化を図り、働きやすい職場環境作りに努める。
<p>今年度の手術件数の目標は 420 件とする。眼科外来の診療体制が変わることで手術件数、眼科外来数ともに減少する可能性あり。患者に、より安心・安全な手術、看護を提供できるよう振り返りや勉強会など計画的に行い、部署全体で専門職としての知識や技術の向上に努める。自部署への応援に対しマニュアルを作成し安全に業務を行えるようにする。また、インシデント・アクシデントの事例分析と対策を共有し、対策の実践・評価をしていく。</p> <p>働きがいのある職場環境をめざすため、前年度に引き続き業務の整理、標準化をはかる。また、終礼を継続し意見交換できる環境を作ること、計画的な有給休暇の取得、部署全体で協力し合い仕事と家庭の両立ができるよう努め、働きやすい職場環境となるようにする。</p> <p>外来他部署への応援体制では前年度同様に積極的に行い、協力体制を維持していく。</p>	

総合外来

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	安心・安全な医療・看護の提供と継続看護の充実を図る リリース体制を強化し、互いに協力しあえる環境作り
<ul style="list-style-type: none">・1日平均外来患者数目標 188 名に対し 182.95 名と目標にやや届かなかったが、各診療科、発熱外来ともに予約外も柔軟に受け入れ、患者数獲得に努めた。 昨年に引き続き、時間単位で看護管理室の採血応援を仰ぎ、採血待ち時間による診療への影響に対応した。発熱外来、処置、電話対応に人手をとられ手薄になる時間帯がどうしても発生してしまうが、コンスタントに採血できる人員の確保ができるよう業務分担計画していく。・診療報酬改定に伴う生活習慣病管理料算定要件のシステム整備を多職種で行い、毎月平均 683 名に実施した。・訪問診療については、循環器科 72 件、緩和ケア科(泌尿器科含む)98 件実施した。ご家族や施設スタッフ、訪問看護師、ケアマネジャーらからの連絡や相談にも適宜対応し連携を図れている。・継続看護に活かすために、病棟の退院カンファレンス、血液カンファレンスなどに参加できるよう協力しあい、参加できた。・看護の質確保のために、各診療科のもちまわりで部署内勉強会を実施した。また、各個人が対応できる診療科・業務の拡大に年間を通して取り組んだ。外来他部署とも毎週リリースについて調整しあい、互いに協力しあった。	
2. 2024 年度 事業計画	
部署目標	安心・安全な医療・看護の提供と継続看護の充実を図る リリース体制を整え、互いに協力しあえる環境作り
<ul style="list-style-type: none">・スムーズな診療・適切な看護が提供できるよう、業務改善と各個人が対応できる診療科・業務の拡大を図る・マニュアルの見直しと業務フロー図の作成・病棟および院外施設との情報共有・連携を強化し、継続看護の充実（記録物および多職種カンファレンスへの参加、訪問診療、等）・部署内勉強会の実施（各診療科、救急対応、災害時対応）・各診療科の状況確認および情報共有を行い、互いに協力しあえる環境作りを強化する	

内視鏡室

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	1. 専門的で安心安全・確実な検査治療の提供 2. 移転後の安全な内視鏡運用 3. 働き方改革と個々の知識・技術の向上
<p>ドック内視鏡も移転完了し検査提供できた。ドック内視鏡検査数：6,334 件。回転率・業務効率化、待ち時間短縮を目指して経鼻内視鏡の増加と鎮静なしの検査増加に力を入れた。結果は前年度の6%より経鼻内視鏡12%、鎮静無し検査数は23%と増加した。</p> <p>外来内視鏡は、上部内視鏡検査：989 件、下部内視鏡検査：1,592 件。検査数は前年度との比較では減っていないが、ここ数年下部内視鏡検査数が減少している。PEG 造設：29 件、PEG 交換：31 件と維持している。EMR：137 件、ダブルバルーン1 件、ステント留置3 件、イレウスチューブ1 件。</p> <p>働き方改革としては、記録用紙改訂、説明用紙改訂で業務改善となった。中途採用者等6 名入れ替わりがあり、教育指導が中心であったため、勉強会実施が、定期的に行えなかった。移転後のドックマニュアルは作成したが、外来系のマニュアルの改訂は完成には至らなかった。</p> <p>入職者を含め内視鏡技師が3 名増加し計5 名となった。</p>	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	1. 知識・技術強化とともに職場風土向上 2. 収益への参画 上・下部内視鏡検査数増加 3. 業務効率化、回転率向上
<ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡技師と業者による定期的勉強会開催 1 回/月（看護部・医師・業者） ・人材育成強化 コミュニケーション促進 ・内視鏡検査数増加（ドック上部内視鏡・外来上部内視鏡・下部内視鏡、PEG 関連） 外来内視鏡検査は、予約枠調整を行う、下部内視鏡は自宅飲用者を増やす ・時間管理と業務見える化、情報提供の共有化 不要な業務の削減と見直し ・メディカルクリップ活用し、内視鏡検査の検査説明動画作成、時間削減と、統一した説明の実施、待ち時間削減を図る ・業務の見える化 業務マニュアルの改訂 	

健康管理センター（看護部門）

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	<ul style="list-style-type: none">・新人教育体制を整え、さらに個々のスキルアップを図る・健康管理センター移転を踏まえた職場環境の整理・予防医療の質向上と機能強化に向け、保健指導の充実と実施率増加を図る
<ul style="list-style-type: none">・成長プラン作成から取り組み、新人保健師 2 名無事自立できた。指導教育に携わることで、マニュアルの見直しや個別の保健指導内容から事例検討会を開始し、統一を意識づけることができた・移転前後で多くの業務改善を図り、環境調整を実施できたが、移転後も継続調整している・採用時健診の受け入れ、鹿児島中央看護専門学校生のワクチン接種対応など幅は広がった・特定保健指導実施率は、動機づけ 64.0%、積極的支援 56.1%と 10%以上増加した・生活個別相談実施率が、99.6%から 86.1%。実施対象者の見極めの統一を行い、実施率を下げること、対象者へしっかりと個別相談を実施することができた	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	<ol style="list-style-type: none">1. 個々の保健師業務スキルアップを図る2. 収益への参画 保健指導実施率向上、健診者数増加3. 業務効率化、職場風土向上
<ul style="list-style-type: none">・成長プランの見直し修正、新人保健師の指導教育、人材育成・保健師カンファレンス・事例検討会・勉強会を 1 回/月 実施・高血圧対象者への血圧指導用紙の作成、オリジナル手帳の作成・階段掲示板を活用して健康情報の提供・午後健診や土曜日婦人科等の健診者増加に向けた取り組み パンフレット、SNS、ホームページの活用・業務内容の見直しの徹底、業務見える化、不要な確認作業の削減、情報の共有化・コミュニケーション促進	

地域連携室

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	1) 地域連携の強化 2) 収益への参画 3) 効果的な働き方
<p>1) 医師、地域連携プロジェクトメンバーと協働し在宅支援機関、クリニック等への訪問活動 44 件訪問。連携のつどいは R6 年 9 月 20 日 T P K ガーデンシティ鹿児島中央で開催し「循環器疾患の連携医療」のテーマで循環器内科医師に講演依頼した。48 名の参加者で満足度も高く来年も参加したいと要望が多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャー対象の研修会は、R7 年 1 月 22 日に開催し上町地区の居宅介護支援事業所 17 件に発送した。「認知症をみんなで考えよう」のテーマで認知症特定認定看護師に講演依頼し症例検討をした。18 名の参加者であり研修の満足度も高かった。 ・リンクインフォメーションは、6 回/年発行し 1,800 件に送付した。 <p>2) 入退院支援：312 件、入院前支援：27 件、退院時共同：25 件実施。各部署の多職種カンファレンスは毎週実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レスパイト入院は、連休や年末年始前に案内を行い 85 件のレスパイト入院を受けた。 ・退院支援看護師育成研修に参加した受講修了者に部署の退院支援ナースの役割を明確にし今後部署での活動準備ができた。来年度は更に充実させたい。 ・入院患者受け入れの迅速化、計画的な退院支援 ・DPC 期間を見据えた計画的な転棟推進：一般病棟からの地域包括ケア・緩和ケア病棟への転棟は 84 件であった。退院、転棟患者数 95 件以上・令和 6 年度の相談件数は 1017 件であった。うちキャンセルが 168 件、お断り 77 件であった。紹介先の意向に添えるように 1 日も早い入院受け入れを行うことでキャンセル件数の減少に努める必要がある。 <p>3) 超過勤務の削減（看護師：8.3 時間（5 時間以下）、MSW 等：11.13 時間（8 時間以下）年末の退職者が出たこと、連携の集いの参加で時間が増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要時患者情報の共有化、連携のためのコミュニケーション促進 ・自己研鑽への支援：死の臨床研究参加、ファーストレベルへ 1 名参加、入院退院支援セミナー（東京）1 名参加。 	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	1) 地域連携の強化 2) 収益への参画 3) 効果的な働き方
<p>1) 地域連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師、地域連携プロジェクトメンバーと協働し在宅支援機関、クリニック等への訪問活動 ・在宅支援センターとして居宅介護事業所、訪問リハ等が同一部署となり更に連携を強化する。 ・連携のつどいの企画・運営（医療機関向けと介護支援専門員等向けの開催） ・リンクインフォメーションの定期的な発行を通じて当院のアピールを行う <p>2) 収益への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院受け入れの迅速化、計画的な退院支援、入院相談キャンセル、お断り事例の減少を図る。 ・カンファレンス内容の充実（退院支援・退院前カンファレンスの実施、多職種カンファレンスの充実）退院支援リンクナースの育成と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・退院時共同指導の件数維持（月毎） ・DPC 期間を見据えた計画的な転棟推進、一般病棟の効果的な運用。一般病棟からの退院、転棟患者数 95 件以上 <p>3) 効果的な働き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PFM の構築、運営 ・超過勤務の削減（看護師 5 時間以下、MSW 等 9 時間以下）個人の目標数値をあげる ・必要時患者情報の共有化、連携のためのコミュニケーション促進 ・自己研鑽への支援 	

薬剤科

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	患者様が安心して治療が受けられるよう、チーム医療に貢献する
	<ul style="list-style-type: none">● 服薬指導は年間で 3,145 件（月平均 262 件）実施され、そのうち 2,319 件（月平均 194 件）を算定した。病棟薬剤業務実施加算 1 については、引き続き算定を継続した。退院時服薬指導は年間で 1,422 件（月平均 119 件）実施され、そのうち 857 件（月平均 66 件）算定した。抗がん薬無菌調製は、年間で 1,202 件実施した。また院内採用薬 11 品目を後発医薬品へ変更し、後発医薬品使用体制加算 1 についても継続算定が可能だった。● 実務実習生（薬学部 5 年生）を 7 名受け入れた。また 2022 年度に当院で実習を行った学生が 2 名、当法人へ就職した。● 院外活動では、第 17 回九州糖尿病看護スキルアップ Web セミナーで依頼講演、第 83 回九州山口薬学大会、第 8 回鹿児島県病院薬剤師会学術大会にて学会発表を行った。第 4 回慈愛会学術集会では 2 名の薬剤師が発表を行い、慈愛会薬剤部合同研修会では 2 演題の発表を行った。また、2023 年度に行われた第 7 回鹿児島県病院薬剤師会学術大会の発表では、優秀発表賞を受賞した。● 日病薬病院薬学認定薬剤師や日本薬剤師研修センター認定薬剤師、糖尿病療養指導士、NST 専門療法士など各資格の単位（新規、更新）を取得した。資格取得者では、がん薬物療法認定薬剤師 1 名、病院薬学認定薬剤師 1 名、認定実務実習指導薬剤師 1 名が認定更新を行った。
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	安心・安全な医療を提供するため、医薬品の適正使用を推進し、多職種連携を通じてチーム医療に貢献します。
	<ul style="list-style-type: none">● 病棟薬剤業務実施加算 1 を維持しながら、薬剤管理指導件数 290 件/月（うち算定 180 件/月）を目標とし、質の高い医療の提供と収益の確保に努める。また、退院時薬剤情報管理指導料についても、50 件/月の達成を目指す。● 後発医薬品への採用薬切り替えを推進し、後発医薬品使用体制加算 1（後発医薬品使用量 90%以上）を維持し、コスト削減に努める。院外処方における一般名処方加算の件数を増加させるため、処方マスタへの一般名の登録を進めていく。● 薬学部 5 年生の実務実習生を受け入れ、薬剤師の指導力向上および収益の確保を図るとともに、将来的な人材確保に向けた大学へのアピールにも繋げていく。● 認定専門薬剤師（日病薬病院薬学認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定薬剤師、糖尿病療養指導士、NST 専門療法士、がん薬物療法認定薬剤師、スポーツファーマシストなど）の更新に向けて、単位の取得、学会発表、患者指導などを通じて継続的に研鑽を積む。また、キャリア開発ラダー（クリニカルラダー）に沿って、個々の能力の開発・維持・向上に努め、院内外における研究発表を積極的に行う。

画像診断科

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	安心・安全な高度医療の提供とモダリティ横断的な技師の育成を目指す
①認定取得の推進 マンモグラフィ撮影認定技師取得、胃がん検診専門技師認定更新を取得した	
②検査紹介患者数増加 画像検査紹介は 617 件となり前年度より 83 件増加した（2023 年度 534 件）	
③業務拡大への対応 2024 年 5 月より CT・MRI 時の静脈路確保を実施している。（364 件）	
④撮影プロトコルの更新 放射線科医と相談し、最適なプロトコル作成を行った。	
⑤部署内ミーティングと症例検討会の定期的開催 部署ミーティング毎月 1 回開催、放射線科医を交えた症例検討会を年 5 回開催予定した。	
⑥画像診断科ニュースの発行 2 回発行し、院内スタッフに放射線や画像診断に関する情報提供を行った。	
⑦法人内施設との連携 今村総合病院と谷山病院への助勤の継続	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	安全で質の高い医療を提供し、経営視点に立った業務の効率化を目指す
①認定取得の推進 マンモグラフィ撮影認定技師取得、超音波検査士、臨床実習指導教員、放射線機器管理士など	
②検査紹介患者数増加 他院からの検査紹介を継続し、年間 600 件の受け入れを目標とする。	
③業務拡大への対応 静脈路確保業務などを継続し、全てのスタッフができるように教育を行う。	
④検診胸部 X 線検査の精度管理調査 全国労働衛生団体連合の精度管理調査を受審し画像評価を取得する。	
⑤部署内ミーティングと症例検討会の定期的開催 部署ミーティング毎月 1 回開催、放射線科医を交えた症例検討会を年 6 回開催する。	
⑥画像診断科ニュースの発行 2 回発行し、院内スタッフに放射線や画像診断に関する情報提供を行う。	
⑦法人内施設との連携 引き続き今村総合病院、谷山病院への助勤を継続する。	

臨床検査科

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	信頼できる質の高い検査結果を提供する 多職種と連携し、安心・安全な検査を目指す
実績 総検査件数：226,865 件 対前年度比 100.6 % 生理検査：18,038 件 対前年度比 103.2% 超音波検査：1,925 件 対前年度比 90.9 % 正確かつ迅速な検査結果の提供を目指し日々の業務に従事した。今年度は機器の更新を行い正確な検査データの提供、安心・安全な検査環境を整え丁寧な接遇に努めた。 心臓・血管超音波検査室を 3F から 2F（生理検査室）に移設し受診者に負担のない導線を確認、また健康管理センター移転、稼働後の検査体制を整え最適なスタッフ配置に努めた。 総合病院検査変更項目：1 件、中止項目（件数減の為）：1 件 外部精度管理：日本臨床検査技師会：A 判定・鹿児島県医師会：33 項目/2SD 内・鹿児島県臨床検査技師会・他各種メーカーサーベイに参加し精度保証に努めた。内部精度管理については、校正や標準物質のデータを確認し厳格な管理に努めた。 認定資格取得：認定認知症領域検査技師合格：1 名、タスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習終了者 2 名、臨地実習指導者養成研修終了：1 名 学会・研修会発表：慈愛会学会 2 演題。慈愛会臨床検査部合同研修 1 演題。院内研究発表会 1 演題。部門内研修：輸血研修を 1 回実施。	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	信頼できる質の高い検査結果を提供する 多職種と連携し、安心・安全な検査を目指す
患者様に安心・安全な検査を受けていただくために、快適な環境づくり、親切な対応とわかりやすい説明を実践する。 1. 業務負担軽減を目的とした業務フロー改善 2. 新規検査項目の検討とスタッフへの教育体制強化 3. 院内外連携強化による患者様への適切な検査環境づくり 4. スタッフの働きやすい職場環境づくりを目的とした体制 内部精度管理を厳格に実施。外部精度管理（日本臨床検査技師会・鹿児島県医師会・鹿児島県臨床検査技師会）に参加し正確な検査結果の提供に努める。 「タスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」を受講し多職種と共同し、医療の質を向上できるよう努める。また各種認定資格の取得を目指せる環境を構築する。能力開発プログラムに沿って個々の特性を尊重しながら医療職としての専門知識・技術を習得するよう努める。また院内・院外研究発表にも積極的に取り組む。必要な有給休暇の取得や残業を増加させない勤務の工夫や適切な人員配置を継続する。身体的、精神的に健康で働ける環境を整える。 各種データ解析・検討に AI を利用し、DX を活用した次世代型臨床検査体制を構築に向けて準備する。	

リハビリテーション室

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	計画的に業務引継を行い、人事異動に伴う患者様へのサービス量低下を抑止する 業務の効率化を図りつつ、スタッフの満足度の高い職場環境を作る
<p>○地域包括ケア病棟チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> 各病棟週 3 回、病棟ラウンドを実施。病棟スタッフと転倒回避対策を協議し、転倒発生前に環境調整を実践できた（転倒発生率：2～4‰台）。 糖尿病教育入院後の運動継続調査は SNS、ICT 活用を検討中。 <p>○DPC・緩和ケア病棟チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当者不在時のフォロー体制を構築。月平均 9.75 単位、代行にて介入。リハ料算定が可能な DPC 病棟リハビリの代行介入にて収益確保に繋げた。 <p>○栄養口腔支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 各病棟、ST にて隔週、週 2 回の昼食時ラウンドを実施。介入必要者は随時リハビリオーダーを依頼し、栄養口腔支援に繋げた。 <p>○腰痛予防・介護技術指導</p> <ul style="list-style-type: none"> リフト導入は継続申請中。法人内でノーリフティングケア推進プロジェクト発足。各施設の委員（リハビリスタッフ）と協働し、職員の労働安全強化に向け活動開始。 	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	「スタッフが定着する」風通しの良い部署運営を目指す 業務内容に応じて注力加減にメリハリをつけ、負担軽減を図る
<p>○地ケア病棟チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> 病棟ラウンド継続での転倒発生率抑止（目標：2‰台） 補完代替リハビリの効果検証、地域包括ケア病棟でのリハビリ提供の在り方を整備 糖尿病教育退院後調査の効率的（負担増なく継続可能な方法）実施 <p>○DPC・緩和ケア病棟チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> DPC 病棟での月平均 10 単位の代行介入による収益確保 事務処理不備等での返戻事例発生の抑止（部署内記録監査での教育徹底） <p>○栄養口腔支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 昼食時ラウンドの継続実施、栄養科との患者支援体制強化 VF 所見の紹介元への情報提供の徹底 <p>○腰痛予防・介護技術指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 慈愛会学会学術集会でのノーリフト活動発表、労働環境整備 <p>○臨床外業務</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員会活動などと臨床業務との両立 各活動の部署内情報共有の徹底 	

視能訓練室

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	① 知識・技術の向上に努め、よりよい診療の補助を行う ② いづろ今村病院と今村総合病院の眼科外来の円滑な連携ができるよう努める
いづろ今村病院、今村総合病院の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・いづろと今村総合間での勤務体制を整え、検査の質の向上およびより良い診療補助に努めた ・視能訓練士全員で両病院の情報共有できるよう連携 収益の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・検査総点数 前年度比 6%増加 検査総点数： 6959636 点 機器管理 <ul style="list-style-type: none"> ・保守契約を結び、円滑な運用が出来た いづろ今村病院・今村総合病院眼科の連携協力体制の継続および強化 <ul style="list-style-type: none"> ・いづろ今村病院・今村総合病院間でローテーション勤務実施し、円滑な診療の補助に努めた 働きやすい職場環境作り <ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境を考慮した勤務体制に努めた 甕島診療 <ul style="list-style-type: none"> ・甕島長浜診療所にて眼科検査実施（視力検査・眼圧検査） 	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	① 知識・技術の向上に努め、よりよい診療の補助を行う ② いづろ今村病院と今村総合病院の眼科外来の円滑な連携ができるよう努める
いづろ病院、総合病院の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・いづろと今村総合間での勤務体制を整え、検査の質の向上およびより良い診療補助に努める ・視能訓練士全員で両病院の情報共有できるよう連携をとる 患者満足度の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・機器や疾患に関する知識の向上及び検査説明の質の向上を目指す ・院外研修等に積極的に参加し、視能訓練室全体でのフィードバックを行う ・部署内で症例報告を実施し、情報の共有化を図り、知識向上につなげる 収益の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・いづろ今村病院と今村総合病院全体で前年度の検査収益を目標とする 勉強会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・月 1 回以上の勉強会を実施し、知識の向上に努める 機器管理 <ul style="list-style-type: none"> ・保守契約を結び円滑な運用。コストカットの徹底を意識する 甕島診療 <ul style="list-style-type: none"> ・甕島長浜診療所にて眼科検査実（視能訓練士 2 名で交互に担当）（2024 年 7 月～月 1 回） 	

栄養管理科

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	院内外での連携を深め、地域ニーズに対応（在宅支援への体制づくり） 慢性疾患を持つ患者様に寄り添い、継続支援する 給食提供の維持
<p>個別栄養相談は、目標 130 件/月に対して 147 件/月と目標達成できた。 集団栄養相談は、糖尿病教室（1W）508 件/年、金土コース 20 件/年、腎保護コース 26 件/年。</p> <p>また IBD カンファレンス・糖尿病や腎臓病関連イベント・栄養士会をはじめとした各種団体への参加協力など、慢性疾患を併せ持つ患者様への支援としても協力できた。</p> <p>在宅支援への体制づくりとしては、週 1 回程度の枠決めに留まった。</p> <p>患者様の高齢化に伴い食事形態は、常食から軟菜～嚥下食対応の方も増えた。安心して経口食維持できるよう、嚥下対応食の幅を広げるよう体制を整えた。栄養支援のニーズも高まり、よりいっそう栄養管理に注力していかねばならない。</p> <p>給食部門は、調理スタッフ派遣やカット野菜・冷凍食材を利用して維持している。病院食が栄養指導媒体となる事もあり食材費高騰に繋がる面は否めないが、慈愛会他施設と情報共有かつ食材の見直しなど引き続き検討を重ねていきたい。</p>	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	慢性疾患を持つ患者様に寄り添い、継続支援する 地域のニーズに対応（栄養支援、在宅への体制づくり） 給食提供の維持・給食材料費の適正化
<p>個別栄養相談件数は、例年通り 130 件/月とし、糖尿病教室（1W、金土、腎保護）や特定保健指導での連携、IBD 患者への支援など継続していく。また在宅支援に向けて、研修会への参加・勉強会などで知識を深め、体制を整えていきたい。</p> <p>高齢化に伴う栄養支援のニーズへの対応、GRIM 基準導入など、栄養管理の充実に向けて、多職種と連携・協働して取り組んでいきたい。各種委員会や関連部署との連携、院内外に向けての活動など継続していく。</p> <p>給食部門は、調理スタッフの体制（職員と派遣の業務整理、人材育成）を整え、食形態の移動（変化）へ対応していく。高騰している給食材料費については、冷凍食材・完調品の利用など検討しながら、栄養指導の媒体としての給食を維持できるよう取り組みたい。</p>	

調理室

1. 2024年度 事業報告	
部署目標	安心・安全な食事を提供
<ul style="list-style-type: none">・職場環境の改善<ul style="list-style-type: none">・衛生面；手洗い、手指消毒を徹底し、感染対策をする。 おおむね達成。・健康面；体調管理のため、残業を少しでも減らしていく。 おおむね達成。・業務の効率化；人手不足による業務の遅延を無くするため、献立や作業の簡略化を行う。 無駄な作業の撤廃。 社員不足の戦力ダウンを補う為に、派遣社員やシルバー人材の導入を初めて実施。新たな発見、課題、問題点<ul style="list-style-type: none">複雑化する患者さん需要への対応。慈愛会職員とその他人員との立ち位置（意識、考え方）の齟齬。病院給食の在り方がどのように進んでいくのかによる戦略的不安。	
2. 2025年度 事業計画	
部署目標	安心、安全な食事を提供
<ul style="list-style-type: none">・職場環境の改善<ul style="list-style-type: none">・衛生面；手洗い、手指消毒を徹底し、感染対策を行う。 掃除分担最適化。・健康面；体調管理（残業管理）の維持。・業務の効率化；食における患者さんへの適切な対応。 ひとつひとつの業務の深掘り、棲み分け。 物資の厳選なる選別と補充。 ラダー制度の導入。 関連部署との連携強化。	

通所リハビリテーション

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	利用者の自律した在宅生活継続のため、他事業所と連携しながら多職種で最後まで支援する通所リハビリ事業所となる
<p>【顧客】前年度までリハビリ会議を要介護者のみに実施し要支援者には実施していなかった。R6年度の介護報酬改定により全利用者員にリハビリ会議を実施する必要が生じ、全員に実施。結果として医師の説明を全利用者に実施したことでご利用者の満足度が向上した。また関係事業所（特に包括支援センターや居宅介護支援事業所）と月1回の報告書提供以外に必要時は随時電話連絡を実施し、利用者の情報を共有、対応を共に検討した。年度後半はお問い合わせ数が増加し、年間を通じての体験利用者数も昨年度より増加した。一定の信頼を得ることができたと考える。</p> <p>【財務】収益は年間 27,563,430 円（月平均 2,296,952 円）で目標値を若干上回りました。利用率は達成できていませんが一人当たりの単価が上昇しました。</p> <p>【業務プロセス】R6年度の介護報酬改定に合わせてマニュアルの修正や整備を実施、必要な委員会や研修を実施した。また部署内での定期的なミーティングを実施し、課題の抽出や解決のための検討を行ってきた。</p> <p>【学習と成長】1名の介護福祉士がラダーⅣ取得のために学習を進めた。また院内研修だけではなく、部署内で災害感染の研修や訓練を実施した。送迎方法・業務スケジュールの見直しを図り連続した昼休憩時間を確保出来るようにした。</p>	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	利用者ごとに異なる環境や目標に合わせてプログラムを作成し、他事業所と連携して支援する。利用者・他事業所に頼られる通所リハ事業所を目指す
<p>【顧客】昨年同様、利用者ごとに合わせたプログラムをたてて寄り添い、また各事業所との連携強化を図り、利用者・家族・他事業者にとって満足度の高い事業所を目指していく。</p> <p>【財務】今後も医師の協力をいただきながらリハビリ会議を開催し算定可能な加算を継続して算定し、減算項目をなくしていく。またハード面を調整し、徐々に受入枠を拡大、最終的に1日4名の増員を目指す。そして休みがちな利用者に対してケアマネジャーと連携して利用を促し利用率の向上を図ります。これらの取り組みにより 2025年度は前年度より収益アップしていく見込みである。</p> <p>【業務プロセス】各マニュアルの修正を定期的に行い、法令で定められた委員会や研修訓練を実施していく。新入職員 PT2名（1名は新卒）に対してスムーズに業務移行できるようプログラムに沿って教育をしていきます。また利用者にとっても不安のないように利用者のフォローをしていく。</p> <p>【学習と成長】個人の目標に沿った研修参加のために業務調整を行います。リフレッシュ休暇として希望者に3連休以上の休暇がとれるように配慮していく（業務に支障がない範囲で他職員との勤務調整や業務調整をしていく予定）。</p>	

居宅介護支援事業所

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	医療と介護の連携による在宅生活の継続
<p>在宅療養支援病院内の居宅介護支援事業所として、在宅医療・介護支援機能の強化のための支援が必要であり、当院の訪問診療を始め、オハナクリニックや高麗町クリニックによる訪問診療、愛の街訪問看護ステーションや節愛訪問看護ステーション等との連携強化を行い、在宅支援の継続を図った。</p> <p>担当利用者の高齢化に伴い、ターミナル者数が増加。訪問看護利用プランが多くなり、訪問看護ステーション節愛に目標値では、年間 5 件に対し実績 35 件と大幅に増えた。</p> <p>毎月のモニタリングを行う中で、訪問看護等の導入により、専門職による身体状況等の管理により、入院者数は予定より少なく在宅生活を継続することが出来た。また、担当者の退院時には、退院前カンファレンスに参加し目標値通りの結果となった。</p>	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	医療との連携により、自宅内での看取りや慢性疾患利用者の在宅生活の継続を図る
<p>在宅支援センターの設置により、外来から入院・退院支援と退院後の在宅支援を多職種協働で支援する役割を担っている。新規や担当利用者の入退院時には、迅速に情報共有し、また多職種カンファレンスへ参加しスムーズな入退院に繋げることが出来るように引き続き努めていく。各専門職より、情報収集を行うことで質の高いケアマネジメントに繋げていきたい。ターミナル利用者の自宅内での療養継続並びに看取りまで行えるよう、訪問診療や訪問看護、福祉用具事業所等と引き続き連携を図る。</p> <p>今年度は、ケアマネジャー増員に伴い、地域包括支援センターからの紹介や法人内外からの新規問い合わせ時に対応し、在宅利用者を増やしていきたいと考える。</p>	

感染管理室

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	感染対策を充実させ、患者様が安心して医療を受けられるよう環境を整える
<p>1. 感染対策の実施 手指衛生剤使用率の増加をめざし 1 患者あたり 20 回と設定したが、1 患者あたり 13.3 回となり、昨年度より 2 回減少した。</p> <p>2. ラウンドにて、感染症対策状況の把握を実施した。 感染制御チームラウンド 1 回/週継続中である。 感染症週報を 1 回/週発行した。</p> <p>3. アウトブレイク 新型コロナウイルス感染症 5 人以上の院内クラスターが 4 回発生した。 (5 階病棟 7 階病棟 8 階病棟)</p> <p>4. 職業感染の減少 針刺し切傷事故 7 件 (前年度±0) 職員インフルエンザワクチン接種率 (301 名) 91.8%</p> <p>5. 感染対策向上加算について 感染対策向上加算 3 から 2 へ変更した。</p> <p>6. 抗菌薬加算算定 基準を満たし 9 月から算定開始した。</p>	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	感染予防対策により、安全な医療環境を提供する
<p>1. 感染対策の実施 手指衛生剤使用率の向上をめざし、1 患者あたり 20 回を目指す。 手指衛生時のタイミングが適切であるか確認する。</p> <p>2. 継続的なラウンドの実施 感染制御チームラウンドを 1 回/週継続する。 感染症週報を週 1 回発行する。</p> <p>3. 職業感染の減少 針刺し切傷・咬傷 5 件以下。</p> <p>4. 院内マニュアルの見直し</p> <p>5. 感染対策向上加算 2 の継続</p> <p>6. サーベイランスの実施 感染対策連携共通プラットフォームサーベイランスへ参加し、地域・全国の感染症状況の把握をする (J-SIPHE) 抗菌薬・耐性菌・手指衛生・デバイスサーベイランスの実施をする。</p>	

総務課

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	総務課業務の見える化と DX 化による業務負担軽減の推進
<p>総務課業務の見える化については、年度途中での人員増もあり、業務の再分配も必要となったことで総務課の業務の可視化は未達となっており、今年度に繰り越すこととする。</p> <p>コスト削減については、供給センター主導の元、複合機のコストカットについての啓発活動を継続して行った。また、代表 FAX 等のペーパーレス化を開始することで、コストカットおよび紙を配布する手間を無くすことができた。</p> <p>広報活動においては、ホームページを 137 件更新、また、HP や Facebook 以外においても、商工会議所への広告掲載、公共掲示板の活用を行った。更に今年度より、健康まつりを名山校区コミュニティ協議会との共催、鹿児島市および垂水市の後援として「いづろ健康・介護まつり」と地域のイベントとして開催、市民モニター会議の開始等、地域のつながりを深めることができた。</p>	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	地域のつながり、院内のつながりを守り、活性化を図る
<p>労務管理においては、勤怠システムの更新を行うため、更新に伴い超勤申請、有休申請について電子化を進め、超勤命令簿の記載に係るコストや手間の削減、業務効率の向上に繋げていく。</p> <p>物価・人件費の高騰が続いていることもあるため、引き続き、材料費・各種契約の見直しを検討・実践する。また、院内の DX 化を進めることで業務効率の向上とそれに伴うコスト削減により、当院の収益性の向上に寄与する。</p> <p>広報活動においては、これまでの HP や Facebook、Instagram を利用しつつ、昨年度から名山校区コミュニティ協議会との共催となった「いづろ健康・介護まつり」を更に発展させていく。また、昨年度から開始した市民モニター会議における、市民による外部からの評価、意見及び提案を受けることで、病院運営の改善、サービスの向上を図っていく。</p> <p>総務課の業務の可視化を進め、それぞれが担当している業務の内容や領域を明確にすることで、他部署スタッフも総務課の誰がどのような業務を行っているか把握できるようにし、部署間の相互理解を進めていく。</p>	

医事課

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	人材育成を通じて互いに成長し合える環境づくりに努める
【顧客】 受付・会計の効率化、待ち時間への対応 ⇒再来受付機利用率 35% (稼働中) 使用不可の患者がおり利用率が下がる原因になっている、8:30 前の来院が約 30 名 マイナ保険証利用率 58% (1 月診療分) 医療 DX 推進体制整備加算基準 45%以上 達成	
【業務プロセス】 施設基準の遵守 ⇒計算時に生活習慣管理料の療養計画の確認を徹底した DPC 対象病院維持 (1 月データ数 90) の為、ベットコントロールへの協力は朝のミーティングを中心に積極的に行えた	
【学習と成長】 診療報酬改定に向けた取り組み ⇒5/23 運営協議会で説明会実施 資料は関係部署へ配布し必要箇所は直接説明 資料にも不備があり、短時間での説明会では不十分だった 新人教育並びに能力開発プログラムの推進 ⇒新人へ役職者を中心に全スタッフで関わり見守ることができた	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	情報収集へのアンテナを張り、情報共有を強化する 個々のスキルアップを図る
【顧客】 受付・会計の効率化、待ち時間への対応 ⇒再来受付機やマイナタッチの運用を検証し改善を図る 再来受付機利用率 50%以上 自動精算機の導入	
【財務】 未収金管理 ⇒未収金管理方法の変更によりスタッフの負担軽減を図る 未収金フローと未収金会議の活用で回収に繋げる 悪質未払い者への法律事務所の介入を進める	
【業務プロセス】 業務フロー作成 12 件以上/年 ⇒部署内の業務整理を行い、計画的に業務フローを作成していく	
【学習と成長】 スタッフ採用 1 名以上 ⇒実習受け入れ、学校への案内を積極的に行う	

医療クラーク

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	診療科業務の専門性・正確性を高める（人材育成） フォロー体制を強化・維持し、相互負担軽減、標準化を図る コミュニケーションを図り、情報共有に努める
<p>【顧客】各種文書作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全診断書 1,229 件（前年比 64.5%） 10 日以上 229 件（全体完了比 53.6%） ・サマリー作成 1,808 件（前年比-341 件） ・情報提供・返書 1,540 件（前年比-814 件） ・特定疾患 448 件（前年比+59 件） ・主治医意見書 230 件（前年比-15 件） <p>→台帳の記載漏れが多い。FAX（返書）の誤送信がありインシデント報告提出</p> <p>【財務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師事務作業補助体制加算（20：1）を通年維持 <p>【業務プロセス】</p> <p>ミーティングでの情報共有 ⇒業務の話し合いなどできず報告のみであった 終礼を開始することはできなかった</p> <p>インシデントの発生防止 ⇒インシデント 17 件（前年比+1 件）同じインシデントの繰り返し</p> <p>【学習と成長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人研修（32H 研修） ⇒資料の準備はできたが計画的に実施することはできなかった ・有給取得 ⇒15.3 日/年 スタッフ間での有給調整がなかった為、苦境することがあった 	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	人材育成に取り組む。フォロー体制を強化・維持し、相互負担軽減、標準化を図る。情報共有に努め、個々ではなく部署としての業務を確立する。
<p>【顧客】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種文書作成 ⇒計画的な着手・作成を行い、10 日以内の作業完了を目指す ・情報提供書の確実な送付・返書管理⇒発送時郵送漏れ・発送遅れがないように台帳管理を行う ・サマリー期限内への作成・登録 ⇒各診療科登録 90%以上を目指す ・台帳の記載を確実に行う ⇒台帳記入を意識する <p>【財務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師事務作業補助体制加算（20：1）を通年維持 <p>【業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングでの情報共有 ⇒部署のスペースを設け、情報共有しやすい環境を整える ・業務フロー作成 ⇒業務の書き出しを行いフローを作成する 12 件以上/年 ・インシデント発生防止・共有 ⇒マニュアルに沿った対応、発生時の報告・共有 誤送信・誤発送 0 件 <p>【学習と成長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人研修（32H 研修）⇒医師事務作業補助加算に伴う 32 時間研修終了を目指す（対象者 4 名） ・スタッフ採用 ⇒事務部門で協力し、実習受け入れ、学校への案内を積極的に行う。1 名以上 	

診療情報管理室

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	データを二次利用し病院運営に貢献する
<p>【診療録関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療録の量的・質的監査 ⇒ 日々の監査、関係部署と連携し不備の訂正依頼 <p>【データの集計・提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> 厚労省等への DPC データ提出 ⇒ 初回提出：4 回/年、データ再確認提出：4 回/年 全国がん登録へのデータ提出 ⇒ 期限内に 256 症例提出を行った。 看護必要度Ⅱの算出 ⇒ 確定値の算出、不備の修正を行った <p>【DPC 係数取得関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体制評価指数（医療の質向上に向けた取組）の上限取得⇒ 達成 上限値：1.00P 取得 係数増加に向けた分析 ⇒ 達成 基礎係数・DPC 対象病院維持への取り組み、毎週のデータ数速報値 毎月のデータ数確定値の算出 ⇒ 達成 データ数の日々の算出、毎月のデータ数確定値の算出、モニタリングを行った。 	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	データを二次利用し病院運営に貢献する
<p>【診療録関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療録の量的・質的監査 ⇒ 日々の監査、関係部署と連携し不備の訂正依頼 <p>【データの集計・提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> 厚労省等への DPC データ提出 ⇒ 初回提出：4 回/年、データ再確認提出：4 回/年 全国がん登録へのデータ提出 ⇒ 期限内に提出を行なう 看護必要度Ⅱの算出 ⇒ 確定値の算出、不備の修正を行なう 外来データ提出加算導入の検討 ⇒ 現実的に導入可能かを判断し、可能であれば導入を目指す。 <p>【DPC 係数取得関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体制評価指数（医療の質向上に向けた取組）の上限取得 係数増加に向けた分析 基礎係数・DPC 対象病院維持への取り組み⇒毎週のデータ数速報値 毎月のデータ数確定値の算出 	

健康管理センター（事務部門）

1. 2024 年度 事業報告	
部署目標	予防医学の質向上と機能強化
【顧客】 ① 受診者に寄り添った健診の実施 →ホームページへグレードアップ健診の掲載、パンフレットの改訂を実施。 受付の流れを検討して、問診票の見直しをおこなった。 ② 健診センター移転の準備 →2024年9月24日 ウェルネスじあい1階へ移転	
【財務】 ① 受診者数の確保と受診単価のアップ →受診者数：10,160名 収益：370,252,000円 (2023年度 受診者数：9,599名 収益：352,774,000円) ② 超過勤務時間の削減→移転の準備により削減は出来なかった。	
【業務プロセス】 ① 企業訪問の実施→2社	
【学習と成長】 ① 1回の事務勉強会の実施 →勉強会は5月に1度のみであったが、胃カメラや胃透視の見学、診療部による研修会への参加を行った。	
2. 2025 年度 事業計画	
部署目標	予防医学の質向上と機能強化
【顧客】 ① 受診者満足度の向上 ・ホームページやパンフレットの内容の充実 ・結果配信アプリの導入 ・満足度アンケートの通年実施	
【財務】 ① 受診者数の確保と収益 UP ② 過勤務時間の削減	
【業務プロセス】 ① 企業訪問の実施 ② 月1回のドックカンファレンス、他職種カンファレンス、事務ミーティングの実施	
【学習と成長】 ① 院内・院外研修への参加 ② 事務勉強会の実施（2ヶ月に1回）	

保安管理課

1. 2024年度 事業報告	
部署目標	進んで行動
①コストの削減	：エネルギー使用料の削減。 【本院】 -1,824,654円 【ウェルネスじあい】 1,367,796円
②安全	：防災訓練の充実、マニュアル構築。 【本院】 9月机上訓練、1月消防訓練実施 【ウェルネスじあい】 8月机上訓練、3月消防訓練実施 ※机上訓練によりマニュアルの見直し。
③施設の整備	：ウェルネスじあい揚水加圧ポンプNO1号機修理工事。地下リネン室FCU取替工事。 ：給湯ラインポンプ修理工事。7階クリーンルーム（702～705号室系統）エアコン修理工事。 ：3階IC室TVケーブル配線工事。売店前自販機コーナーへ給茶機設置工事。 ：屋上基地局改修工事。別館1、2階改修工事。手術準備ホール手洗い装置改修工事。 ：8階病棟休憩室エアコン取替工事。別館2階トイレ系統排気ファン取替工事。 ：7階病棟男性トイレ小便器1台取替工事。いづろ今村病院、ウェルネスじあい消火器入替。 ：地下貯水槽定水位弁取替。10番診察室簡易陰圧装置ファン取替。 ：給湯ラインポンプ、オーバーホール。1階女性トイレ自動手洗い装置取替工事。 ：716、420号室FCU取替工事。旧健康管理センター改修工事。 ：直流電源装置蓄電池取替工事。
④環境への対応	：エネルギー使用量の削減（前年度比-1%）目標 電気 15,468 kwh ⇒ -6,578 kwh 前年度比（-0.4%） デマンド 4 kw ⇒ -7 kw 前年度比（-5.5%） ガス一般 2,322 m ³ ⇒ -64,163 m ³ 前年度比（-27.6%） ガス設備
2. 2025年度 事業計画	
部署目標	進んで行動
①コストの削減	：エネルギー使用料の削減。
②安全	：防災訓練の充実、マニュアル構築。
③施設の整備	：中央配管設備改修工事。 ：エレベータ取替工事。 ：空調機取替工事。 ：院内改修工事。
④環境への対応	：エネルギー使用量の削減（前年度比-1%） 電気 15,403 kwh デマンド 3 kw ガス一般 1,681 m ³ ガス設備

コロナ過で減少した外来患者数も近医の糖尿病専門クリニックの閉院等で新規患者が増え、ようやく前年度を超えるまでになりました。今年度もインフルエンザワクチン 248 回に加え、新型コロナウイルスワクチンを 79 回実施しました。患者会などのクリニックでのイベントは、まだ中止しています。新規患者様の急増で対応に追われましたが、患者様とのコミュニケーションを大事に努めました。毎年、患者様から募集している「糖尿病川柳」も開催し、作品は、今回もいづろ今村病院広報誌「にじ」にて掲載しました。物価高騰もあるなか厳しい経営を強いられますが、新たな加算等を取り入れ実直に患者様と向き合っていきます。

職員数

医師(常勤 1 人)	看護師(常勤 2 人)	管理栄養士(常勤 1 人)	事務(常勤 4 人)
5 人	5 人	1 人	4 人
・日本糖尿病療養指導士(CDE) 3 人 ・鹿児島県地域糖尿病療養指導士(KLCDE)3 名			

1. 年間事業報告

(1) 外来患者数 年間 10,513 人 前年度比 100.6 % 月平均 876.1 人

	R6.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7.1	2	3
外来患者数	857	863	854	848	884	859	944	872	981	864	827	860

(2) 栄養指導数 個人指導合計 107 人

	R6.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7.1	2	3
個人指導	7	8	5	9	6	13	14	8	8	11	9	9

栄養指導は、初診時の食生活指導のほかに、透析予防対策の腎臓ケアなど病状に対応している。近年は、また、患者自身の年齢や関心度や実践度に応じて、ひとりひとりにあった摂取カロリー等を指導している。また、患者の興味が湧くような資料づくりにも尽力する。

(3) 糖尿病合併症管理加算算定回数(糖尿病フットケア施術) 合計 延 117 回

今年度は、前年度より 5 回多かった。看護師よりフットケアを実施。対象患者に対する足病変の定期的チェックをタイムリーに実施している。合併症による視力の低下等でケアが自身でできない患者に爪切りを含め施行する。

(4) 患者教育

・透析予防に関する指導 (糖尿病透析予防管理)

糖尿病腎症 2 期以上の患者を対象に医師・看護師・管理栄養士が各々の段階に応じた指導を実施している。患者自身の腎症に対する意識や知識の向上をめざす。

	R6.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7.1	2	3
腎症 2 期	184	175	172	138	153	147	152	128	154	141	154	156
腎症 3 期	32	34	42	29	39	32	40	35	30	32	35	35
腎症 4 期	11	11	8	12	11	11	15	11	13	9	10	11
指導人数合計	227	220	222	179	203	190	207	174	197	182	199	202

R6 年度透析予防指導の実績(R6.4~R7.3) 年間実指導数 443 名

HbA1c が改善または、維持された者→ 349 名(全体の 78.7%)

血中クレアチニンまたは eGFR が改善または維持された者→ 342 名(全体の 77.2%)、

血圧が改善または維持された者→ 357 名(全体の 80.5%)

・糖尿病カンパセーションマップ™の開催

今年度は新型コロナウイルス感染対策により休止。

●患者会「いずみ会」イベント

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため休止

●糖尿病川柳 実施

患者自身とその家族を対象に「糖尿病川柳」として募集。日頃糖尿病に向き合う中で感じたことを川柳にさせていただく。作品は、いづろ今村病院広報誌「にじ」に掲載。

●いづろ今村病院 「健康・介護まつり」サポート

健康相談コーナー、会場内案内受付を担当

●小児糖尿病サマーキャンプ

新型コロナウイルス感染防止対策のため小児糖尿病サマーウォークとして実施、管理栄養士が参加。

(5) シャドウイング

鹿大医学生 実施人数 9 名

2. 学会・研修実績

1. 第88回日本循環器学会年次学術集会(Web), 2024年4月 (加藤)
2. 令和6年度第1回保険診療研修会, 2024年4月8日 (今村)
3. 肝疾患病態栄養専門管理栄養士(Web), 2024年5月 (加藤)
4. 日本循環器学会 九州地方会(県民交流センター), 2024年月6月 (加藤)
5. GLP-1seminar in KAGOSHIMA (Web), 2024年6月11日 (今村)
6. 日本病態栄養学会 糖尿病専門管理栄養士セミナー(Web), 2024年7月 (加藤、船蔵)
7. 糖尿病看護実践力開発研修会(鹿児島), 2024年7月7日 (牧原)
8. 第31回鹿児島市域糖尿病医療連携体制講習会(Web), 2024年7月16日 (今村、牧原)
9. 新しい血糖マネジメントを考える会(Web), 2024年8月20日 (今村)
10. DUAL Seminar 慈愛会病診連携 糖尿病学術講演会座長(鹿児島), 2024年8月30日 (今村)
11. 日本病態栄養学会 肝疾患専門管理栄養士セミナー(Web), 2024年9月 (加藤)
12. 糖尿病スタッフセミナー(Web), 2024年9月 (加藤)
13. 第28回鹿児島DMスタッフセミナー(Web), 2024年9月7日 (牧原、新山)
14. 全国栄養士大会(Web), 2024年11月 (加藤)
15. 糖尿病重症予防研修(フットケア), 2024年11月7~9日 (船蔵)
16. 第32回鹿児島市糖尿病医療連携体制講習会(Web), 2024年11月19日 (今村)
17. 鹿児島県眼科×糖尿病 合併症治療 Meeting (Web), 2024年12月12日 (今村)
18. Diabetes Relationship Seminer in 九州, 2024年12月17日 (長田)
19. 日本病態栄養学会年次学術集会(Web), 2025年1月 (加藤)
20. 第1回糖尿病重症化予防連携強化研修会(Web), 2025年1月16日 (今村、船蔵)
21. 九州糖尿病看護研修会(Web), 2025年2月4日 (牧原)
22. 鹿児島糖尿病教育ナース研修会(Web), 2025年2月10日 (牧原)
23. 令和6年度鹿児島県地域医療構想研修会(Web), 2025年3月17日 (今村)
24. 第33回鹿児島市糖尿病医療連携体制講習会(Web), 2025年3月18日 (今村)

2024年度 1年のあゆみ

4月1日	慈愛会合同入職式
5月18日	心に届く慈愛の物語を紡ぐ会（慈愛会）
5月26日	休日当番医
7月27日	第4回慈愛会学会学術集会 慈愛会創設90周年事業 特別講演会
8月23日	机上消防訓練実施
9月15日	休日当番医
9月20日	地域連携のつどい
9月24日	健康管理センター移転オープン
9月27日	消防訓練実施
10月19日	いづろ健康・介護まつり
12月12日	医療監視
12月30日	仕事納め式
12月31日	休日当番医
1月22日	介護支援専門員向け研修会及び意見交換会
1月24日	消防訓練実施
3月27日	院内研究発表会
3月28日	ウェルネスじあい消防訓練実施